

福井県原発を止める 原発差止訴訟に参加しましょう。

2013年2月 福井から原発を止める裁判の会

やまをかえせ
かわをかえせ
うみをかえせ
ふくしまをかえせ
にほんをかえせ
こどもたちのみらいをかえせ
ほうしゃのうのないせかいをかえせ

音楽家坂本龍一さんが脱原発世界会議へ
よせたメッセージ



イラスト 柚木ミサト

福島第一原発の事故後一年あまりになります。坂本龍一は、「にんげんをかえせ」と慟哭した峠三吉の原爆詩の想いに言葉を重ねたのでしょうか。唯一の自国内に向けた核兵器ともいわれる原発が、そのとおりの結果を招きました。慟哭に慟哭を重ねてしまう現実が私達の目の前にあります。

多くの人が古里から避難をよぎなくされ、あるいは、健康への不安の中、高い放射線下で生活をよぎなくされています。農漁村では生産や販売が思うようにできず、子ども達までまきこんで、健康や死のリスクに基づく環境や食品への不安は、つきることはありません。事故現場では、今までの作業基準をはるかに上回る基準のもと、高放射線の中で人々が働いています。事故の影響をあげると枚挙にいとまがありません。

政府の事故収束宣言とは裏腹に、事故現場は、溶融した燃料の状態さえわからず、放射能も漏れ続けています。再臨界や爆発の可能性も否定されていません。

福島の現実明日の福井ではないでしょうか？福井に住む私たちは、福島の現実を他人事とは思えません。

そんな中、若狭の原発を再稼働していこうという動きが活発化しています。このままでは、安全神話が崩れたにもかかわらず、危険な原発が再稼働し、地震、老朽化、人為ミス等、いつ過酷事故になるとも限りません。一旦過酷事故となれば、もう取り返しがつかないことは、辛い現実ですが、福島で証明済みです。若狭での事故は福島の事故をはるかに超える可能性もあるのです。

原発を福井からなくしましょう。司法の場においても、憲法で保障された権利と義務にもとづいて、原発を続ける、再稼働するなどという暴挙を告発しましょう。

しかし、一般の人にとって、裁判はとても大変なハードルです。原発を止めたいという気持ちは強くても、お金はどうする。どうやったら訴訟できるのだろう。なかなか、起こしにくいのが現実です。

そこで、私たちは、「みんなで集まって原発差止訴訟をやろう。」と準備しています。幸い、全国の弁護士さんが「脱原発弁護団全国連絡会」を結成されました。裁判を支援し担ってくださいます。福井でも弁護士さん達が立ち上がってくれました。

次のような事項で集まって裁判を起こしました。ぜひ、原告、支える会会員に応募ください。応募者の中で世話人会を作って、相談しながら準備を進めます。原告団と支える会発足にあたって、訴訟内容や、支える会の活動などを案内させていただきます。福井の原発をとめましょう。

(1) 福井県内の原発を差し止める訴訟をおこします。(2012年5月4日変更)

※ 私たちとしては、福井県内の全ての原発を差し止め廃炉にすることが目的ですが、全ての原発を対象にする訴訟は、時間と労力と資金的負担が大きすぎるため、現在弁護団中心に、どの原発を対象するかなどを、政府における議論の動向を踏まえて、慎重に検討中です。
(2012年10月6日現在) 再稼働された大飯3.4号機の運転差し止めを、関西電電力に求めます。

(2) 訴訟の内容は弁護団に委任する形で行います。

原告団と弁護団は十分意思疎通を図ります。原告団発足時に、訴訟内容(申立書)を提示します。

(3) 原告の方は、可能な範囲での裁判期日への出席をお願いします。

また、どのような思いで今回の訴訟に参加したか、についてもタイミングに応じて(文書にせよ口頭にせよ)裁判所にお伝え頂ければと思います。

(4) 原告の最初の訴訟費用は約10,000円です。ただし、裁判で専門家の証人をお願いする費用が発生することがあります。一回の訴訟で、初年度15,000円(裁判費用10,000円、原告団費5,000円)、次年度から5,000円程度を考えております。

さらに、裁判とその支援活動費用を、支える会やカンパ金でまかなっていこうと考えています。原告、支える会会員が多く結集して、ひとりあたりの負担軽減をめざします。

(5) 原告団とは別に「訴訟を支える会」をつくり、訴訟の支援を訴えたり、カンパ金を集めて資金援助します。

法廷の中だけでは、裁判で勝利することは期待できません。大きな世論の後押しが必要です。広く、一般市民に原発の危険を訴えたり、原発の諸問題を学習する活動も行なっていきます。支援者、支援団体との連帯もかせません。

(6) 福島第一原発事故をうけて、原発から遠く離れた地域に住む人も原告となれる可能性が高くなりました。福島の事故で明らかな通り、一旦過酷事故が起こった場合、被害は国境をも超え全世界に広がります。私たちは、地域・国境を選ばず、原告を募集します。